

単子葉植物 カヤツリグサ科

ハタベスゲ



1961年, 八戸市, 根市益三

青森県：A 環境省：絶滅危惧 B類 形態的特徴

湿り気のある所に生える多年草。全体に毛のあるのが特徴。ややそう生し高さ 40～70cm。基部の鞘は赤褐色。葉は幅3～6mm。果胞は硬い膜質、卵形で長さ5～6mm、脈があり、無毛、先は嘴となる。

分布等の概要

県内では太平洋側の八戸市・三沢市に産する。湿地周辺や流れのほとりに生育する。分布域はクジュウツリスゲと同じく、かつて牧野の展開していた範囲である。1978年に同じ分布域の岩手県洋野町の放牧地でサクラソウとともに小群をなしているを見たが、今はそこも落葉広葉樹林に遷移し、わずかに残るだけである。

(根市益三)

シダ植物 ウラボシ科

オオエゾデンダ



2001年, 八戸市, 根市益三

青森県：B 環境省：絶滅危惧 B類 形態的特徴

岩上などに着生する常緑性シダ。根茎は灰色、鱗片は一樣に淡褐色。葉身は広披針形で、羽状に全裂する。胞子囊群は羽片の中肋と縁辺の間から中肋寄りにつく。類似種にエゾデンダ・オシャグジデンダがある。

分布等の概要

北海道・本州(青森・岩手・鳥取・島根)、北半球の温帯に広く分布する。北欧では路傍にも生える普通種とされているが、日本では産地が限られ個体数も少ない。県内では東通村桑畑山と八戸市の海岸部に点在する。

(根市益三)

双子葉植物離弁花類 ナデシコ科

アオモリマンテマ



1971年, 白神山地, 細井幸兵衛

青森県：B 環境省：絶滅危惧 類 形態的特徴

山地の岩場に生える多年草。根生葉はヤナギのような細い葉で、長さ8cmくらい。茎葉は根生葉より小さく、対生する。茎の先端に3cm前後の白色の花を数個咲かせる。花期6月。萼は鐘形で膨らみ、10脈があり、産地により腺毛のあるのと無いものがある。

分布等の概要

本州(青森・秋田)に分布。白神山地から初めて報告された植物である。県内では日本海側南西部の山地に局所的に産する。

(齋藤信夫)

双子葉植物離弁花類 キンポウゲ科

ミチノクフクジュソウ



1989年, 十和田市, 細井幸兵衛

青森県：B 環境省：準絶滅危惧

形態的特徴

草地や明るい林内に生える多年草。茎は中空。萼片は5、6枚で、長さは花弁の1/2～1/3、外面は緑色。花期4月中旬～5月上旬。よく似たフクジュソウは、茎が中実。萼片が6～10枚で、花弁と同長からやや短い、外面紫色から暗紫色。花期3～4月。

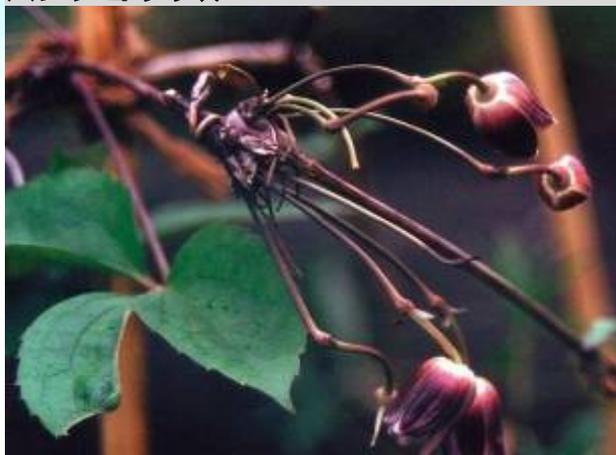
分布等の概要

本州(中部以北)・九州、朝鮮に分布する。県内では太平洋側南部に局所的に産する。海岸から丘陵地の草地や落葉広葉樹林下に生え、フクジュソウと混生することもある。

(根市益三)

双子葉植物離弁花類 キンポウゲ科

ハンショウツル



1994年, 川内町, 細井幸兵衛

青森県：B 環境省：該当なし

形態的特徴

ミヤマハンショウツルに似て葉は3出。花は紫褐色で下垂し、質が厚く縁に白細毛が密生する。

分布等の概要

岩手・秋田・宮城・山形の4県からは正確な分布は知られておらず、それより南に広く分布することが知られている。一種の隔離分布で津軽・下北両半島に分布している。林縁もしくは明るい林内に希産する。

(細井幸兵衛)

双子葉植物離弁花類 ドクダミ科

ハンゲシヨウ



2002年, つがる市(旧森田村), 木村啓

青森県：B 環境省：該当なし

形態的特徴

地下茎は太く横に這って、茎は80cmほど。葉は卵形で基部は心臟形をし、柄は長い。花の時期には葉の下半分が白色となる。

分布等の概要

世界的分布は日本・朝鮮・中国・フィリピン。日本での分布は本州・四国・九州・沖縄である。県内では、下北区域・西津軽区域の局限された地点に見られる。湿地や水辺に生育する。

(木村啓)

双子葉植物離弁花類 トウダイグサ科

ヤマアイ



1998年, 深浦町(旧岩崎村), 木村啓

青森県：B 環境省：該当なし

形態的特徴

草丈 20～30cm の多年草。茎は直立し4稜があり、葉は対生し長楕円形で柄がある。雌雄異株で、早春に葉腋から細長い花柄を出し、緑色の小花を穂状につける。

分布等の概要

世界的分布は日本・朝鮮・中国・インドネシア。日本の分布は本州・四国・九州。県内での分布は深浦町(旧岩崎村)だけで、低地の神社境内や付近の落葉樹林内に群生している。

(木村啓)

蘚苔類

イヌマゴケ目 カワゴケ科

コシノヤバネゴケ(標本)



1977年, 外ヶ浜町(旧平館村), 柿崎敬一

青森県：B 環境省：絶滅危惧 類

形態的特徴

茎の長さは3～7cm、葉は長さ4mmほどで狭卵状披針形、中肋部で二つ折りになり、先端に小歯があって葉縁は反曲する。中肋は葉先に達する。

分布等の概要

北海道・本州(中部地方以北)に分布し、県内では赤石川流域と津軽半島の河川源流部の2か所で生育が確認されている。産地は局限されており、希少種である。川や沼の岸辺に生える木の根元などに着生する。

(柿崎敬一)

イヌマゴケ目 カワゴケ科

カワゴケ



2003年, 六ヶ所村, 柿崎敬一

青森県：B 環境省：絶滅危惧 類

形態的特徴

茎は長く、葉は長さ5mm前後でクロカワゴケよりまばらにつく。中肋はなく、卵状披針形で二つ折りにはならない。

分布等の概要

北海道から本州、北半球に広く分布する。県内では下北半島で記録されている。湧水などのある川や池沼の水底に生える。

(柿崎敬一)

ゼニゴケ目 ウキゴケ科

イチョウウキゴケ



2002年, 西目屋村, 太田正文

青森県：B 環境省：準絶滅危惧

形態的特徴

葉状体は緑色から赤紫色、長さ1～1.5cmで、二叉分岐の繰り返しによって全体としてイチョウの葉形になる。

分布等の概要

ウキゴケと同様、世界中に広く分布する。県内では下北半島・津軽地域・三沢市で記録されている。水田や池・用水路などに浮遊するが湿土上にも生える。ウキゴケと混生することもある。

(柿崎敬一)

淡水藻類

シオグサ目 シオグサ科

マリモ



2008年, 小川原湖, 若菜勇

青森県：A 環境省：絶滅危惧 類

形態的特徴

2008年12月、小川原湖で直径2～3cmの纏綿型のマリモが確認された。ヒメマリモは沼底の未分解植物残渣中に糸状体や1～2.5(～3.5)cmの偏球状の藻体として生育する。

分布等の概要

本県では小川原湖沼群の市柳沼・田面木沼・内沼・小川原湖・姉沼で生育が確認され、マリモの品種フジマリモと呼ばれている。

(平井正和・原田幸雄)

地衣類

チャシブゴケ目 イワタケ科

オオウラヒダイワタケ



1987年, 佐井村, 柿崎敬一

青森県：A 環境省：絶滅危惧 類

形態的特徴

地衣体は淡褐色の葉状地衣で、径3～12cmである。背面は裂芽や盛り上がったひだを欠き、平滑でやや光沢がある。縁部は全縁または不規則に波曲する。腹面には偽根の変形した多数の小さい板状体がある。子器は普通に見られる。乾燥すると折れ、破損しやすい。

分布等の概要

シベリア・アラスカ・アリューシャン・北米東部に分布する。国内では北海道の芦別岳と下北半島西部に位置する縫道石山、縫道石で記録されている。山地の露岩上に生える。

(柿崎敬一)

菌類

ハラタケ目 キシメジ科

ヤチヒロヒダタケ



2002年, 青森市, 工藤伸一

青森県：A 環境省：絶滅危惧 類

形態的特徴

中～やや大型なカヤタケ型からモリノカレバタケ型のきのこ。傘は淡黄土色で中央に微細な鱗片を密布するが、鱗片の発達は悪く、多少粘性がある。柄にはつばがない。

分布等の概要

国内とヨーロッパに分布し、ヨーロッパではアルプスの高山帯や北部高緯度地域の湿原に発生する。日本では群馬県尾瀬から報告されたが、現在、発生が確認されているのは本県と京都府だけである。本県では秋、休耕田のようなヨシなどの茂る湿地や田の畦などに発生する。

(工藤伸一)

ハラタケ目 キシメジ科

バカマツタケ



1996年, 青森市, 手塚豊

青森県：B 環境省：絶滅危惧 類

形態的特徴

本種は中型のキシメジ型をしたきのこである。傘は栗褐色で周辺部は淡色～ほぼ白色、初め繊維状でのち表皮は裂けて鱗片となる。柄の上部には綿毛状のつばをつける。肉はち密でマツタケに酷似し、特有の香気をもつ。

分布等の概要

本種は全国的に広く分布するが、発生地はある程度限定され、発生も比較的まれである。本県では初秋、里山のミズナラ・カシワの雑木林内に菌輪をつくって発生するが、太平洋側ではほとんど確認されていない。

(工藤伸一)

ハラタケ目 イグチ科

ヤマドリタケ



2003年, 八甲田山, 工藤伸一

青森県：B 環境省：情報不足

形態的特徴

本種は中～極めて大型のイグチ型をしたきのこである。傘は栗褐色で無毛平滑、幼時から湿っているとき多少粘性がある。肉は厚く、緻密で極めて堅い。柄は太くて堅く、表面は淡色で、白色のやや細かい網目模様があるが、下方ではしばしば不明瞭。

分布等の概要

本種は夏～秋に、針葉樹(主にトウヒ属)の樹下に発生するといわれており、国内では本県以外に北海道から発生が知られている。本県では秋、八甲田のエゾマツ林内の地面に発生する。

(工藤伸一)

チャワンタケ目 ベニチャワンタケ科

シロキツネノサカズキ



1995年, 十和田市(旧十和田湖町), 工藤伸一

青森県：C 環境省：該当なし

形態的特徴

本種は小型のワイングラス形をしたきのこである。初め球形、のち頂部が開き、ついにはワイングラス形となる。内面は深紅色であるが、外面と柄は白い毛を密生する。

分布等の概要

本県では初夏、湿り気のある林内の落ち葉に半ば埋もれた落枝上に発生する。本種は全国的に分布するが、従来、類似のシロキツネノサカズキモドキと混同されてきており、正確な分布は不明である。本県における採集記録は十和田市(旧十和田湖町)の山林における2例だけである。発生地が限定されていることから、環境の変化によって絶滅が危惧され、環境の保存が望まれる。

(工藤伸一)

セイヨウショウロ目 イモタケ科

イモタケ



2007年, 青森市, 工藤伸一

青森県：D 環境省：該当なし

形態的特徴

本種は中～やや大型なジャガイモ様のきのこである。表面は淡黄～帯褐橙色、凹凸で大小の低い疣があり粗面である。肉は堅い。

分布等の概要

本県では秋、広葉樹雑木林内の林道脇など土が露出したところの地中に発生する。本種は日本のほかに北アメリカに分布し、国内では北海道、本州に分布する。本県でも近年発生が確認されたものの、地下生のきのこは調査が不十分であり、今後の詳細な調査が必要である。

(工藤伸一)

哺乳類

ネコ目 イヌ科

ニホンオオカミ(後ろ足)



1995年, 十和田市, 向山満(正法寺所蔵標本)

青森県：EX 環境省：絶滅

形態的特徴

外形はイヌと似ているが、頭骨などで区別できる。

分布等の概要

全国的にも絶滅したとされるので分布していない。かつては、本県の陸上生態系の頂点にあって草食動物の個体数調節の地位にあった。

(向山満)